

八戸・よこまちの移動スーパー 新井田店でもスタート

販売車両に商品を積み込む従業員15日、八戸市のよこまちストア新井田店



売ルートとなる。住民から移動スーパーのサービスを求める声が多かった地域だという。販売員は当面、よこまちの従業員が務めるが、個人事業主の「販売パートナー」を募って業務を引き継ぐ方針だ。

この日は、従業員が新井田店で生鮮食品や総菜、生活雑貨などを車両に積み込み、対象地区を回って住民に商品を販売した。

横町社長は取材に「地域の方々に移動スーパーをアピールしていく。来年度中には当初予定の10台を運用できれば」と話した。

(松原一茂)

青森県南地方でスーパーを展開する「よこまち」(八戸市、横町俊明社長)は15日、よこまちストア新井田店(同市)を拠点に、移動スーパー事業をスタートさせた。販売車両の導入は5台目。市内の旭ヶ丘団地、妙、新井田、松館地区が対象エリアとなる。

移動スーパーは、交通手段が限られる高齢者らの買

い物支援を目的に、乳製品の宅配を手掛ける「南山デイリーサービス」(同市)と共同で実施。今回のエリア拡充により、販売車両は同市で4台、三沢市で1台が運用されることになった。

新井田店の車両は週4日稼働し、火・金曜日は旭ヶ丘団地と妙地区、水・土曜日は新井田と松館地区が販

県南でスーパーを展開する「よこまち」(横町俊明社長)は15日、八戸市新井田店を拠点に同社5台目となる軽トラックの移動スーパー「とくし丸」の運行を始めた。

5台目のエリアは同市旭ヶ丘団地、妙、大館、松館地区の約70軒。2ルートに分け、一つのルートを週2回運行する。販売ルートを開拓し、同社と連携して「とくし丸」を運営する「南山デイリーサービス」(同市、南山泰政社長)によると、旭ヶ丘団地のある町内会では、高齢者世帯の需要が多いとして、町内会長から運行を希望する声が寄せられていたという。

初日はドライバーを担当する「よこまち」の石橋利典さんが、総菜や刺し身のほか、鍋物のタレ、使い捨てカイロなど季節ものの商品も積み込み出発した。

横町社長は「まだ運行していない地域からもとくし丸に来て

「とくし丸」5台目スタート

「よこまち」展開 移動スーパー



「とくし丸」に総菜などの商品を積み込む石橋さん

八 戸 70軒対象 週2回運行

ほしいという要望をいただいている。来年度中には、目標の10台を達成したい」と話した。

同社はとくし丸の事業目的の一つに雇用創出を掲げ、5台中

2台の運行を個人事業主に引き継いでいる。新井田店のとくし丸も担い手が見つかり次第、運行を任せたいとしている。

(小橋徹)